



## 農の暮らし ~自給自足社会に向けて~ (28)

いのちを食べて生きている私たち。私たちの生活を支えている農のこと、農のある暮らしについてもっと身近に感じてみてください。できることから始めましょう。(高崎渉)



### 百姓の知恵を笑顔で伝える 鳥取県 田中仲雄さん(64)

ユネスコの自然公園(ジオパーク)に指定された自然溢れる鳥取の海岸から500mほど内陸に進むと、畑と家屋の点在する中に、塀一面貼り紙だらけの家が現れます。家主は、この場所では有機無農薬農を営んでいる、いつも笑顔がトレードマークの田中仲雄さん。

掲示物について尋ねると、「家の塀を使って環境問題や、持続可能な社会作りの知恵などを紹介しています。小学生が見ていくんです」とのこと。

家に一歩足を踏み入れて、さらに驚かされました。廊下からトイレまで、壁という壁に表と同じような展示物が並んでおり、一見すると資料館のようです。

そして、その一つ一つに未来を想う優しいメッセージが溢れているため、まったく威圧感はなく、むしろ不思議と落ち着く空間となっています。

### 人生の転機と「田中仲雄活動展」

農薬散布の影響で農家が病気になる現実に疑問を持っていたところ、1999年に『地球村』の高木さんの講演会に参加。地球の現状に衝撃を受るとともに、今までの生き方を反省して、「あと少しばかりの人

生の残りを、世界中の子どもたちにささげよう」と決意。環境問題や農、食養に関する猛勉強をはじめました。

その後、ヨハネスブルグ(南アフリカ)の地球サミットに参加するなど、『地球村』の活動に積極的に参加しました。それらの活動が県の生活環境部長の目にとまり、2003年と2004年の2回に渡って鳥取県庁で地球にやさしい社会づくりなどを伝える「田中仲雄活動展」を開催。期間中は庁舎内に多数の資料とボードが展示され、多くの方が目にしました。

その後も、バイオマス(微生物)ガスエネルギーについて学ぶために、アフリカのマリ共和国を訪れるなど、積極的に活動を続けています。



2003年に単身マリ共和国へ

### 化学の知識と百姓の知恵

田中さんは、半農半漁の家庭に7人兄弟の末っ子として生まれました。貧しい暮らしながら「お前一人くらい大学に行かせてやりたい」という兄の応援のおかげで、島根大学農学部農芸化学科に進学。そのため、様々な農業の技術を化学式で分析して説明するなど、実はかなりの理論派。化学の知識と百姓の知恵を併せ持ち、EM(微



乾燥用の部屋で自家採種をする

生物)や宇山酵素の技術を積極的に取入れるなど、日々技術に磨きをかけています。

## 百姓の知恵は被災地支援にも

昨年10月末に『地球村』が実施した第5回被災地支援ボランティアの活動先は、寒風沢島(さぶさわじま)という、現地で食糧調達のできない松島の小さな離島でした。事務局から参加者の募集を行ったところ、田中さんから元気な声で電話をいただきました。



「支援に行きたいのですが、席はまだ空いてますか？ 64歳です

が、若者には負けません！うちで作った米と野菜をみんなで食べましょう。お金？ いりません。これも支援です。」ツアーの最高齢メンバーとして参加した現地では、百姓の知恵と技で大活躍。重い瓦礫も体に無理のない運び方をし、生い茂った草はひとの数倍の速さで刈っていきます。

何より、どこまでも明るいその人柄で、誰とでもすぐに打ち解けてしまいます。

田中さんが

「はっはっはー」と豪快に笑うとみんなも笑うので、東北に最高の元気を届けることができました。



家中の壁に展示物がある。上は『地球村』被災地支援バスのレポート

## 大切な女性の命を救うため

奥さん(孝江さん)と出会ったのは5年前。当時、孝江さんは重い病気を抱えており、

体温も驚くほど低く、このままだと命の危険を感じる状態でした。そこで、田中さんは栄養満点の無農薬野菜を中心とした食事療法を開始。まもなく、2人は結婚して生活を共にするようになりました。自身も日々勉強を重ね、持ち前の食養の知恵に磨きをかけながら、数年にわたる熱心な治療を続けた甲斐あって彼女の病気は改善し、ついに完治しました。

田中さんの作る野菜は命に溢れており、シンプルな調理法で驚くほど美味しい



ご馳走になります。食卓には笑いが絶えず、そんな温かい雰囲気に引き寄せられて、体調を改善したい人から、農学部の学生まで様々な人が訪ねてきます。さらに、近所の方がいろんな食材を持ってきてくれるため、食卓はいつも彩りに富んでいます。取材の際も、若者が2人、農の教えを請いに訪れていました。

## 人を活かすNPOを作りたい！

今後の目標を聞くと、「農の知恵を後世に伝えると共に、障害のある人も活躍できるNPO法人を作りたい」と即答。

「体が不自由な人がひたすら流木を磨いて素晴らしい工芸品を作りあげるなど、障害があっても自分にできる範囲で活躍できる場があれば活き活き生きられる。農の知恵を通して人を活かすと同時に、生きがいを見つける障害者支援も今後の大切なテーマです」。還暦を越えてなお、田中さんの挑戦は続きます。

農業体験にお越しください♪

田中 仲雄

〒681-0073 鳥取県岩美郡岩美町  
大字大谷 437(TEL:090-2069-2567)